

「道徳ノート」をきっかけとした つながり、深まる授業

～子どもの発達に伴う変容～

前田 良子（東京学芸大学附属小金井小学校）

1. はじめに ～道徳ノートとは～

道徳の話し合いが盛り上がりを見せる時、それはきっと話し合いのテーマと子ども自身の「話したい・聞きたい」という思いがぴったりと重なるときではないだろうか。しかし、1時間1主題を扱うことが前提となる道徳の授業の中で、「子どもたちの思い」をくみ取りながら学習を展開させていくことは難しい。教師主導の学習展開になってしまう恐れもある。

子どもたちが主体的に道徳的価値を見つめ、自分の生き方と道徳的価値とを見つめられるような時間を創るためにはどうすればよいか・・・そんな思いから、「道徳ノート」を考えた。

（1）自分を見つめるきっかけとしての「道徳ノート」

「道徳ノート」とは、毎時間道徳の授業の際に配布するワークシートのことである。ノートは、「話し合いのタネ」「話し合いの芽」「授業・話し合いを終えて」の3つの部分で構成される。

①話し合いのタネ

子どもたちは、資料の提示の後、子どもひとりひとりが自分の経験と照らし合わせたり共感したりしたことを「話し合いのタネ」の部分に自由に記述する。記述するための観点は、以下の4つである。

- あるある！：資料と自分の経験と照らし合わせ、似たような経験が想起されるときに記述する。道徳的価値と自分の生き方を結びつけるために有効である。記号：①
- いいね！：資料の中で共感した点や大切だと思った点を記述する。道徳的価値についての共感的理解につながる。記号：◎
- なんで？：資料の中で納得のいかない点や疑問点を記述する。道徳的価値を巡るできごとへの批判的な視点をもつきっかけとなる。記号：②
- 心に残る：上記の3点に当てはまらないが、心に残ったことを記述する。「どれかに当てはめなければならぬ」と思いこむがゆえに子どもの思考が停止してしまうことを防ぐための観点である。記号：◎

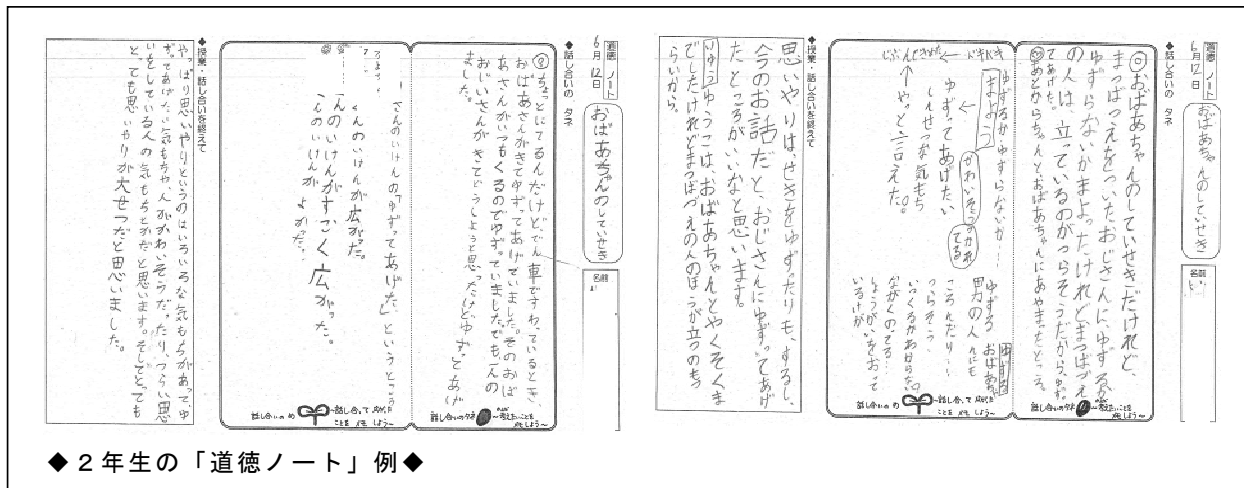
「話し合いのタネ」とは、子どもが資料と出会った時に感じた第一印象を記録することである。このタネを足掛かりとして、子どもには、共感したことや疑問に思ったことを授業の中で発言したいという意欲が生まれる。そしてより主体的に授業に参加しようとする姿勢が見られる。

②話し合いの芽

授業の話し合いの中で、「いいな」と思った友だちの意見や自分の考えは、「話し合いの芽」の部分に記述する。書き方は自由である。この「話し合いの芽」は、書くことによって、自分の考えがより深まったり道徳的価値への自覚につながるきっかけとなることを期待して作った欄である。しかし、書くことに夢中になってしまい、話し合いに参加できなければ意味がないので、ここの欄は、無理に書かせず、「書ける子は書いてもいいよ」という程度に子どもたちには伝えている。

③授業・話し合いを終えて

授業後の学習感想にあたる部分である。一時間の道徳の学習をふり返って心に残ったことや自分がこれから意識していきたいことなどを記述する。道徳的価値と自分との関わりを考える時間である。



◆ 2年生の「道徳ノート」例 ◆

2. 道徳ノートを用いた、2年生 4年生 5年生の実践

～『おばあちゃんの指定席』（永田繁雄・作）より～

子どもの発達段階に合わせて話し合いの視点を変えていくなれば、同一資料で低学年・中学年・高学年での授業実践を行うことは可能であるはず。そして同一資料で低・中・高と授業を展開させていくことは、子どもたちの話し合いの深め方や道徳的価値の自覚の仕方などの発達のな変容もみることができるはずである。

以上のような視点から、「思いやり・親切」の道徳的価値をテーマとした『おばあちゃんの指定席』（永田繁雄・作）を用いて低学年(2年生)・中学年(4年生)・高学年(5年生)を対象に授業を行った。

『おばあちゃんの指定席』は、『自分を見つめる 中学生の道徳 1』（あかつき）に掲載されている中学1年生向けの作品だが、もともとは、小学校の中学年向けに作成されたものである。内容は、以下のとおりである。

途中の駅の電車に乗ってくるおばあさんと仲良くなった主人公。自分の座っている席を「おばあちゃんの指定席」にして、ゆずってあげることを楽しみにしている。しかし、ある日、足を怪我した男の人が乗車してきた。迷いながらも主人公はその男の人に席をゆずる。「これでいいんだ」と思いつつ、おばあさんと会うことにためらいを感じる主人公。いつものように電車に乗ってきたおばあさんは、主人公の「おばあちゃん、ごめんなさい。今日は席がないの」という言葉に笑顔を向ける。

中学年の女の子が主人公であるため、小学生の子どもにも分かりやすく、そして共感できる内容となっている。また、本校の子どもたちは、電車やバスなどの公共交通機関を使って通学する子が大半を占めるため、低学年の子どもにも十分理解できると考えた。さらに、中学1年生の副読本にも掲載されているように、話し合いのポイントが随所にちりばめられている。そのため、子どもの発達に合わせた話し合いも可能であると考えた。

(1) 道徳ノートの比較 ～「話し合いの芽」を中心に～

① 1時間の授業の流れ

どの学年の授業も、はじめに「電車やバスの中で誰かに席をゆずったことがあるか」という、自分の経験をふり返る発問を行なった。資料を読む前に価値へ意識を向けさせるための導入である。そして、資料を読み聞かせた後に、道徳ノートの「話し合いの芽」の部分に、心に残ったことや共感したことなどを記入する時間を設けた。以下は、2年生の学習の流れである。

○ねらい 小さい子や身近にいる人に対して、その人の気持ちを考えながら、温かい心で接しようとする思いを育む。

○学習の流れ

| 学習活動（○主な発問 ●子どもの反応） | ◇指導上の留意点 ◆しかけ |
|---|---|
| 1. 電車で席をゆずった経験があるか問う ○電車やバスで、だれかに席をゆずってあげたことはありますか。 | 効果的な導入 ◇身近な自分の体験を想起させることで、子どもの意識を道徳的な価値へと方向づけられるようにする。 |
| 2. 資料を聞き、話し合う | ◇場面絵を紙芝居のように提示し、子どもに分かりやすいようにする。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 思いやりで大切なものは何だろう？ </div> | |
| ◆資料の吟味◆ ○おばあちゃんが電車に乗ってきたとき、ゆうこはどんな気持ちになっただろう？ ・どうしたらいいかな【迷い】 ・おばあちゃん、立ったままだと疲れちゃうかな【心配】 ◎怪我をした男の人が乗ってきたとき、あなたがゆうこだったら、席をゆずってあげますか、それともおばあちゃんに席をゆずりますか。 ・男の人の怪我がつらそうだから。 ・おばあちゃんは、理由を話したら分かってくれると思うから。 ・おばあちゃんとの約束を守れなくなってしまうから。 ・おばあちゃんのことを大切にしたいから。 3. 思いやりについて考えたことを発表し合う。 | ノートに書くことによる子ども自身の資料吟味 ◆「自分にもあったこと」「心にのこったこと」「考えてみたいこと」などを、自由に記述する。 ◇中心発問に向け、ゆうこの気持ちを掘り下げるため、始めに席を譲ったときの心情に共感させる。 ◇「思いやり」についての理解を深めるため、ゆうこに自己を投影させて考えさせる。 ◇正解はなく、自分で迷い、選んだこと自体に価値があることを伝える。 ◇相手を思いやる気持ちには、さまざまな形があることを確認する。 |
| 4. 教師の説話 | |

②「話し合いの芽」の比較 ～共通点と相違点～

「話し合いの芽」に書かれている子どもの反応を、大まかに分類すると、低学年・中学年・高学年を通じて共通する反応と、発達的に変容したと思われる反応が見られた。

【2年生】

| その他 | 自分の経験 | | | おばあちゃんについて | | ゆうこについて | | | | | | | | | |
|--------------------|------------------|----------------------------------|----------------|----------------------|------------------------|----------------------------|----------------------|----------------------------|---------------------------------|----------------|---------------------------------|---------------------------------|-------------|-----------------------------------|------------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ゆうことおばあちゃんは友だちみたい | ！同じ人を2回見かけたことがある | ！ゆうこのように、どちらの人にゆずろうか迷ってしまったことがある | ！自分も、ゆずったことがある | ？なんておばあちゃんはやべらないのだろう | ♡おばあちゃんの人柄（ニッコリ笑顔・優しい） | ？何で土曜日に同じ電車に乗ることがわかったら笑うのか | ？何でおばあちゃんと知り合いになったのか | ？どうして、勝手に、おばあちゃんの指定席にしたのか？ | ？なぜ、泣いてしまったのか・（西山駅に着くまで）こわかったのか | ？なぜ、男の人にゆずったのか | ◎おばあちゃんにあやまったところ・あやまってないちゃったところ | ◎ゆうこの人柄について（親切・とてもいい子・思いやりのある子） | ♡ゆうこが迷ったところ | ◎おばあちゃんだけでなく、足を怪我した人にも席を譲ってあげたところ | ♡おばあちゃんに席を譲れたところ |
| 1 | 1 | 1 | 7 | 1 | 7 | 1 | | 7 | 1 | 3 | 4 | 5 | 1 | 17 | 3 |

【4年生】

| その他 | 自分の経験 | | | おばあちゃんについて | | ゆうこについて | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|----------------------------------|----------------|-------------------------------------|--|--|-------------------------------------|--------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------|----------------------|------------------------------|---|-------------------|-----------------------------------|--------------------------|---|----|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・シルバーシートの人がゆずらないのは、おかしい | ！ゆうこのように、どちらの人にゆずろうか迷ってしまったことがある | ！自分も、ゆずったことがある | ！自分も、ゆずろうかゆずらないか迷ったことがある（でもゆずれなかった） | ♡おばあちゃんの人柄（いつもの笑顔で笑ってくれた・心の広い人・思いやりのある人・優しい） | ♡おばあちゃんの人柄（いつもの笑顔で笑ってくれた・心の広い人・思いやりのある人・優しい） | ？足を怪我した人が二人来てしまったら、ゆうこはどうするだろうと想像した | ？なぜ、おばあちゃん優先にしないのか | ？私だったらすぐに席をゆずってあげるのに、なぜすぐにゆずらなかつたのか | ？どうしてこんなに勇気のあるゆうこが、おばあちゃんの指定席にしたのか？ | ◎正直におばあちゃんに言えてよかった | ♡おばあちゃんを信じる気持ちが心に残った | ◎おばあちゃんに事情を言ったところが心に残った・よかった | ♡ゆうこの人柄について（優しい・いい人・勇気がある・みんなのことを考えている） | ♡ゆうこが迷ったところが心に残った | ◎おばあちゃんだけでなく、足を怪我した人にも席を譲ってあげたところ | ♡初めておばあちゃんに会った時に席を譲れたところ | | | |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 8 | 4 | 2 | 12 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 7 | 5 | 14 | 2 | 21 | 8 |

【5年生】

| その他 | | 自分の経験・自分を投影 | | | | おばあちゃんについて | ゆうこについて | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|-------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|----------------|-------------------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------|-------------------|----------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|---------------------|--|-------------|-----------------------|-------------------------|
| ？なぜ、おばあちゃん・男の人はシルバーシートのある席へ行かなかったのか | ？なぜ、他の人は気づかない・ゆずらないのだらう | ！私も自分の「指定席」があったら、おばあちゃんのようになっていたと思う | ！ゆうこのように、どちらの人にゆずろうか迷ってしまったことがある | ！自分も、ゆずったことがある | ！自分も、ゆずろうかゆずらないか迷ったことがある（でもゆずれなかった） | ♡おばあちゃんの人柄（思いやりのある人・優しい） | ？この後（お話の後）、ゆうこはどんな行動を起こすか | ？ゆずるのはいい事なのに、なぜ泣いたのか | ？なぜ、おじさんに席をゆずったのか | 「人間は共存している」ということを理解しているということになる。 | ・自分もうれしくなってお年寄りと足を怪我した人も喜んでくれるのは、ゆうこが | ・「席がないの」と小さな声で言ったのは、男の人に聞こえないように | ・おばあちゃんに正直に席をゆずったことを言った方がいい | ◎ゆうこの行動について（良い・正しい） | ◎ゆうこの人柄について（思いやりがある・勇気がある・人が困っている時には見ていられない） | ◎ゆうこが迷ったところ | ◎足を怪我した人にも席を譲ってあげたところ | ♡おばあちゃんに毎週席をゆずれたところ・すこい |
| 5 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 6 | 5 | 2 | 7 | 2 | |

○共通点

どの学年でも、「足を怪我した人にゆずってあげた」点に対して共感したり心に残ったりする子どもが最も多かった。さらに、ゆうこやおばあちゃんの人柄について触れる子どもも多い。

このことから、資料の最大の山場ともいえる足を怪我した人がそばに立った時のゆうこの葛藤やその後のゆうこの行動は、子どもの共感を十分に引き出すものであるといえる。そしてその様な行動を起こすことのできるゆうこや、ゆうこの行動に対して笑顔で応えることのできるおばあさんに対しても、子どもたちは年齢を超えて共感していることがわかる。

○相違点

2年生や4年生では、「自分もゆずったことがある」というような、自分の経験について触れている子どもが10数名いるが、5年生ではむしろその人数は減っている。しかし、5年生ではゆうこの行動に対して子ども自身が評価（いいことをした・正しいことをした など）することができたり、自分自身を投影（私だったら…）することができたりしている。さらに、周囲の人への疑問やシルバーシートへの言及からわかるように、社会的な側面にも目が向けられるようになっている。このことから、高学年児童の視野が少しずつ広がっていることが伺える。

(2) 話し合いの実際

① つぶやきからつながる話し合い・・・2年生の実際

発達段階的には、まだ他者の心情を考慮することが難しいとされる年齢だが、資料と向き合い、友だちの意見を聞くことによって2年生なりに深く考えることができた。

話し合いを通して、気になることや自分の思いがあふれてくると、色々なところから「つぶやき」があがる。2年生の授業では、そのつぶやきをきっかけとして、話し合いが活性化されたり道徳的価値に気づくことになったりすることが多い。思ったことを直ぐに口にしてしまうことで、教室が騒がしくなってしまうこともあるが、この子どもたちの「思い」を教師が拾ったり切り返したりと話し合いをコーディネートすることで、より深い内容に発展する様子が見られた。

【実際の様子】

・・・中心発問の後、学級全員が男の人に席をゆずるとい意見となり、

その理由を発表している場面・・・

T：(男の人にゆずってあげるとい理由を数名の子から聞いた後) こういう気持ちなんだね。

でも、おばあちゃんにも席をゆずってあげたい気持ちも・・・ある？

つぶやき1：ある！

つぶやき2：いっぱい

つぶやき3：(おばあちゃんに) あやまらなくちゃいけないって思うくらいいっぱいある。

つぶやき4：でも、半分よりも男の人の方が、今いるからって思うと、ちょっと多くなる。

T：おばあちゃんにゆずってあげたいって気持ちもいっぱいあるし、男の人にゆずってあげたいって気持ちも、たくさんある。

—ざわめき—

つぶやき5：でも、男の人が多かった。ちょっと多い。

T：ちょっと多かったから、ゆうこは男の人にゆずってあげたってこと？

つぶやき6：でも、そう決める前に…たぶん、おばあちゃんにゆずろうかなって時よりもすごく迷ったと思う。

T：もう一度いってくれる？

つぶやき6：最初におばあちゃんにゆずってあげようかなっていうときより、もっと迷ったんだと思う。

T：どう、この【つぶやき6】君の意見？ みんなはどう思う？

—賛成の意を表す拍手—

つぶやき7：うん、そうだと思う。



2年生の板書：葛藤場面は「すんごく迷う」と表現された

②友だちの思いをつなげる話し合い・・・4年生

4年生は、2年生のようなつぶやきは少なかったが、友だちの思いとつなげて自分の思いを語る子が多く、子ども同士で話し合いを深めることができた。

4年生の子どもたちからは、ゆうことおばあさんとの「信頼関係」に目を向けた発言が多く見られた。裕子とおばあさんの間に信頼関係が築かれたからこそ、ゆうこは怪我をした男の人にゆずることができたのではないかと、という話し合いの流れになり、「思いやり」が行動として現れる一つの要因として「信頼」が挙げられるのではないかと、という結論に至った。

【実際の様子】（つながりのみられる箇所に.....）

.....中心発問について.....

C1：えっと、おばあちゃんなら分かってもらえるって信じて、あの足を怪我している人にゆずってあげる。

T：なるほど。おばあちゃんだったら分かってもらえる・・・

C2：C1さんに似てるんですけど、ゆうこはおばあちゃんの指定席なんですけど、足が不自由な人にゆずってあげるのは、すごい勇気がいることだと思った。

C3：ええと、おばあちゃんは立っていてもあまり辛くないけど、男の人は怪我してると痛いので、辛いと思って・・・おばあちゃんは、ゆうこがゆずってくれたからニコニコしているんじゃないかって、ええと、ゆうこの気持ちが嬉しくてニコニコしているんだと思うから、それは、ちょっとその男性...男の人にも知ってほしいっていうか、分かってほしいかもしれないから、たぶん、いっこゆずることで二人の人に分かってもらえるから、いいんだと思う。

T：なるほどね。おばあちゃんがニコニコしているのは、座れたからじゃないんだ。

—略— 他に何か、自分はこう考えるよっていう人は、いますか？ はい、C4君。

C4：あの、やっぱり・・・「おばあちゃんの指定席」なんですけど、ゆうこがおばあちゃんのため以外（の人）にも席をゆずれるから、おばあちゃんがすきだからゆずってるんじゃないかって、ゆずった方がいいから、全員に（＝誰にでも）ゆずる。

T：なるほどね。ゆうこはおばあちゃんだけじゃなくて、いろんな人にもゆずってあげられるんじゃないかって... C5さん。

C5：ええと、C4君に付け足しなんですけど、ええと、だれにでもゆずれるのは、たぶんおばあちゃんが、席をゆずったときに喜んでくれて、それがうれしかったから、他の人にも喜んでもらいたい（と思ったから）

T：なるほどね。ここ（板書を指す）があったからこそ、「誰にでもゆずれる」んじゃないかな・・・はい、C6さん。

C6：ええと、ゆうこが泣いちゃった理由なんですけど・・・私は、ゆうこはいつもおばあちゃんにゆずってて、今回は足の不自由な人にゆずったんですけど、その前に「おばあちゃんの指定席」って言っちゃったから、あと、おばあちゃんが乗ってきたときにニコニコしてたから、ニコニコしてるのに自分は足の不自由な人にゆずっちゃって、申し訳ない・・・

—略—

C7：きっとわかってくれるってことは、おばあちゃんを信じてるし、約束した席はみんなのものだから、ゆずってあげようと思った。

—略—

C8：さっき、C6さんが申し訳ないって言ったんですけど、・・・私は「指定席」って言ったのに、それを嘘ついで言っちゃったことが申し訳ないんだと思った。



4年生の板書：葛藤場面は「モヤモヤ」と表現された

③視野を広げてつなげる・・・5年生

5年生からは、登場人物だけではなく、シルバーシートへの言及や、最後にゆうこが小声になってしまった理由、そして「なぜ、周りの人はゆずらないのか」といった周囲の人に対する批判的な意見も挙がった。このような見方は、2年生や4年生からは出ておらず、話し合いからも高学年児童の視野の広さが伺える。本実践では、自分の経験と結びつけたり当事者だったらどうするべきかといった視点で考えたりすることで、自分の考えを深めることができた。話し合いの内容をテレビCMと結びつけながら発言する子も居り、日常生活からも道徳的価値が自覚されていることが分かった。

【実際の様子】

C1：ゆうこがしたことなんですけど、おばあちゃんは立って歩けるのは大丈夫なんですけど、おばあちゃんのほうが足が不自由な人より乗ってる時間が短いと思うし、この男の人は乗ってきたときから立っているのが辛かったって言っているから、それでもゆうこも苦しいと思うんですけど、周りの人もそういう風に見つけたらゆずってあげるといいと思う。

T：なるほどね。

C2：なぜ、そのおばあちゃんやおじさんは、シルバーシートの方へ行かないで・・・

つぶやき：その場所、シルバーシート無かったんじゃないの？ シルバーシート無い車両もあるよ。

つぶやき：あるとしても（車両の）一番端っこだもん。

C3：いま、C2が言ったことで思ったのは、例えば、自分の乗る駅は、真ん中に階段があって、シルバーシートが一番端の車両にあるとすると、目的地の駅でまた歩く方が大変だから、階段とかエレベーターに近い、その車両に乗っているから、シルバーシートのある車両には座れない。

T：お年寄りとか、怪我をした人にも事情があるってことだね。

—略—

C4：最後に、おばあちゃんに小声で「席がないの」って言ったことなんですけど、大声で言うと、その時に他の人にも聞こえる声で言ったら、足が悪い人は耳が悪い訳じゃないから、聞こえていたらおじさんも、「親切にしてくれたのはありがたいけど、自分にも責任がある」って言う風になるから、そういう風にしないようにした。

C5：罪悪感に似てるんですけど、男の人にゆずらないで、おばあちゃんにゆうこがゆずったら、怪我をしてる人が反発してくると思う。

C6：C4さんの、小さな声に付け足しなんですけど、男の人はゆずってもらったんだけど、おばあちゃんに大きな声で言われると、自分にも罪悪感があって、おばあちゃんにゆずっちゃうって気がして、ゆうこは、その男の人に座ってていいんじゃないかって思った。

C7：いまのIさんとAさんの意見とは違うんですけど、おばあちゃんは、いつでもそこに座っているから、そこに男の人が座っているのを見てがっかりするかもしれない。「約束したのに」っていうのがあって、ちょっと大きい声で言えなくて、小さい声になっちゃった。

—略—

C8：いっちゃ悪いんですけど、最近の若い人って席をゆずらない。私は、バスに乗るんですけど、バスの中で二つの席があって、わざと隣に乗られないように外側に乗っている人がいて…

T：他の人はどうしてゆずらないのっていう意見も出たけど、どう思う、みんな？

C9：たとえば、自分が体調悪かったり具合が悪かったりしたら、お年寄りが来たとしても、立ったら体調が悪化しちゃうって理由でゆずれないと思う。

C10：自分もゆずりたくないし、ゆずるのが面倒くさいって思う人もいるから、他の人はゆずらなかったのかなって思うし、目の前にいるゆうこがゆずればいいじゃんって思う人もいる。

T：じゃあ、目の前にいるゆうこ・・・ゆうこも他の人に任せてもよかったと思うけど、どうかな？

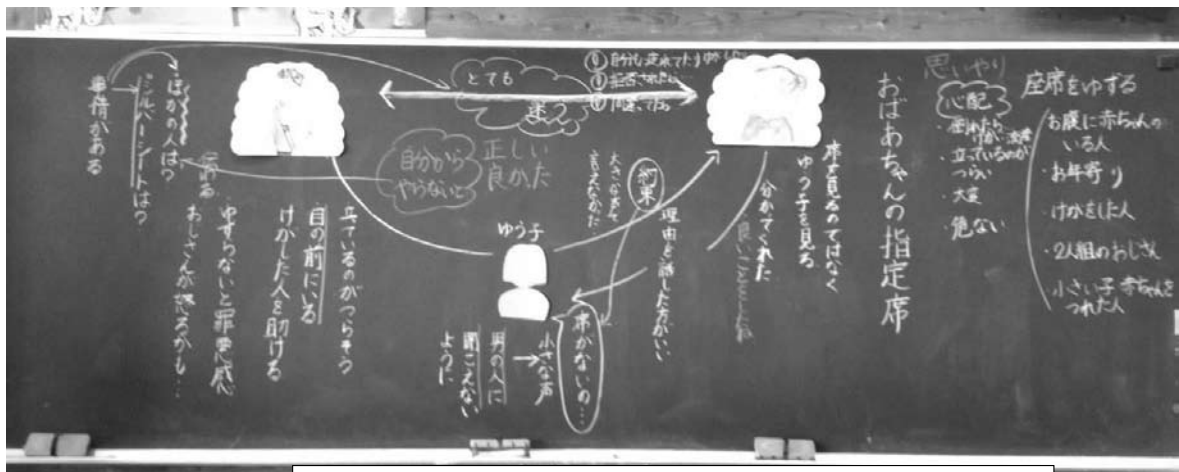
C11：逆にこのままだれかゆずんないかな～って待っていても、その人（＝怪我をした男の人）が足を（もっと）痛めちゃう場合があるから、それなら、自分がゆずった方がいいと思う。

C12：他の人も他の人がゆずらないかなって思ったりするから、そしたら絶対にゆずれないから、自分からゆずった方が・・・ゆずった方がいい。

C3：まえ、ACのCMで、掃除係を決めるときに誰か挙げないかなって言って、待ってても誰も挙げないから自分で挙げて、それからみんなに広まって・・・それみたいに、自分からやらないと何も始まらないから…

つぶやき：いつゆずるか？

つぶやき：いまでしょ！

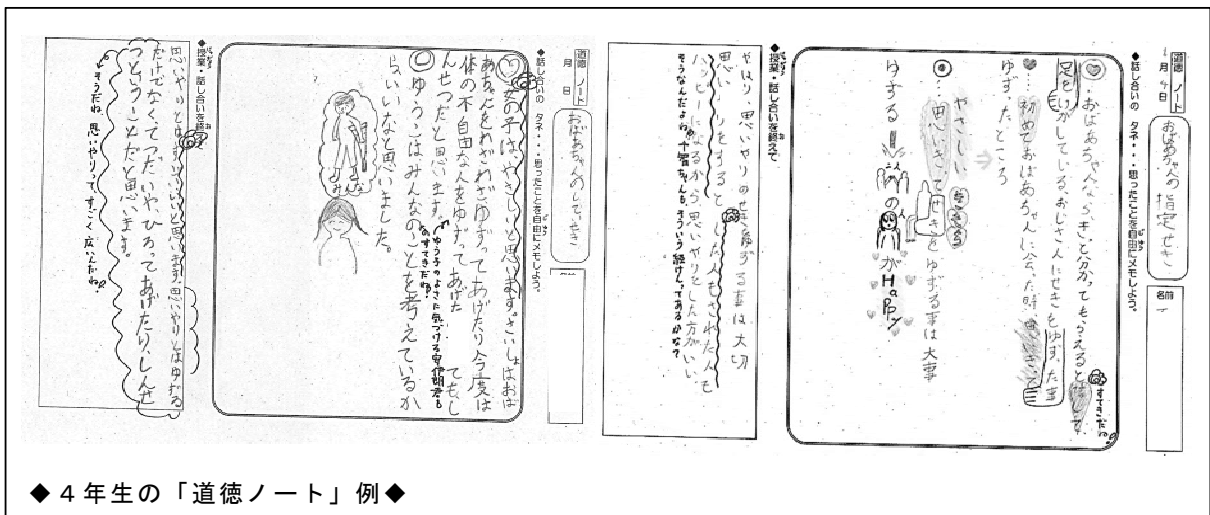


5年生の板書：葛藤場面は「とても迷う」と表現された

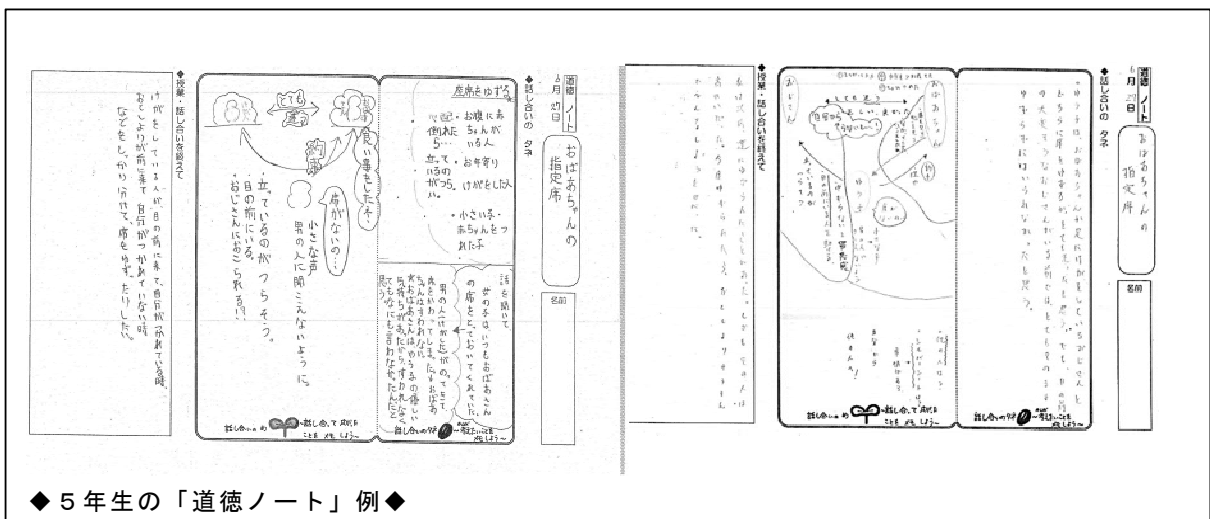
3. 終わりに ～子どもの発言をつなげるために～

道徳ノートを活用した授業実践を通して感じたことは、資料を読んで得た自分の思いを記述することで、子どもたちには自分の「思考の足場」が出来上がるのではないかと、ということである。そしてその足場をどのように生かすかは、子どもの発達段階に応じて異なってくる。中学年・高学年になると、話し合いの過程についても「話し合いの芽」の中に詳細に書き込むことができるようになる。また、記述することによって、「友だちに伝えたい・友だちの考えも聞きたい」という思いが高まるようにも感じた。話し合いをする中で、一人の子が意見を言うと、あちらこちらから手が挙がる・つぶやきが聞こえるといった反応が、どの学年からも見られた。

そのため、教師が配慮しなければならないことは、子どもの思考に寄り添いながらも、子どもひとりひとりの道徳的価値を深めるための発問を常に意識していく、ということである。そのためには、教師が「どこで・どのように出るか」を考えながら子どもたちの話し合いを進めていかなければならない。例えば子ども同士の発言が繋がられていても、それが教師主導で行われてしまっている場合は、意味がないのである。この授業のコーディネートのあり方は、今後の大きな課題である。



◆ 4年生の「道徳ノート」例 ◆



◆ 5年生の「道徳ノート」例 ◆